

なく今日に至っている。多忙な教師がこれを実行してきたことは普通の努力でできるものではない。ことに自動記録計の貧弱であった昭和30年代には苦勞の多かったことと察せられる。ちなみに、その観測実績が認められ、気象庁から昭和42年には八王子観測所として業務委託があり、さらに昭和51年にはアメダス4要素が設置されるようになった。

この間、中学校理科教育で扱う気象教材に役立てるため、観測データを精選して「学習資料集」をまとめたり、「本校の観測データを活用した気象の学習指導——ワークシート学習」（共同研究）の開発など気象教育に

関する数多くの仕事に打ちこんできた。

中学校理科の教科書だけでは、気象観測の意義や方法、観測データの教材化など現場における指導は必ずしも容易ではないのが現状である。原嶋会員は今後、従来の実績の上にさらに実践的な教育研究を積み、生徒に対する気象への関心・態度・理解を高める指導法を一層発展させようとしている。この活動は学校における学習指導の向上に貢献するばかりでなく、地域住民への広範な気象知識の普及などにも及ぶことが考えられ、本学会はここに奨励金を贈るものである。

「第29回風に関するシンポジウム」開催

共催：地震学会・土木学会（幹事学会）・日本海洋学会・日本機械学会・日本気象学会・日本建築学会・日本航空宇宙学会・日本地理学会・日本農業気象学会・日本林学会

開催期日：昭和57年12月8日（水）10:00～17:00

会場：土木学会土木図書館講堂（東京都新宿区四谷1丁目無番地、国電・地下鉄「四ツ谷駅」下車徒歩3分、電話 03-355-3441）

プログラム：

一般講演（発表1題20分、討議は2～4題まとめて行う）

10:00～10:10 挨拶 東京大学 伊藤 学

10:10～10:50 (1) 山間地帯の風に関する観測について 宮崎大 野中善政・角田三郎

(2) 山の風下にできる渦 東大 恩田善雄・佐藤 浩

10:50～11:00 討議 (1)～(2)

11:00～12:00 (3) 風洞中に於ける強い乱れ場の発生に関する研究

豊橋技大 蒔田秀治・宮本真志

(4) 粗度要素による乱流境界層内の拡散（風洞実験）

気象研 加藤真規子

(5) 比較的平坦な地形模型の拡散（風洞実験）

気象研 加藤真規子・花房龍男・藤谷徳之助・新野 宏

12:00～12:15 討議 (3)～(5)

12:15～13:20 昼食・休憩

13:20～14:40 (6) 海風の数量化（Ⅱ）

大阪府立公衆衛生研 由谷聰至

(7) 風速変動のスケールとスペクトル

気象研 花房龍男・藤谷徳之助

(8) 風向データの統計解析

東京都公害研 伊藤政志

関東学院大 広尾 純

(9) 構造設計からみた風速の再現期待値

東大 藤野陽三・伊藤 学

14:40～15:00 討議 (6)～(9)

15:00～15:10 休憩

15:10～15:50 (10) 防風網の気象改良効果およびその配置法について

農業技 真木太一

(11) 冷却塔の耐風設計に関する二、三の提言

奥村組 河原畑良弘・中江新太郎・

原田 実

15:50～16:00 討議 (10)～(11)

16:00～17:00 特別講演「本州四国連絡橋の耐風設計について」

中大 岡内 功

（土木学会本州四国連絡橋耐風研究小委員会委員長）

懇親会：17:15～19:00 土木学会土木図書館5号室

会費3,000円（当日会場受付へお申し込み下さい）